



Arcsilkオリジナル作品
京染せい山 山田紗也
太平長安夏小紋「暁 あかつき」



太平長安の生糸を使った「Arcsilk(アルクシルク)」のものづくりは、次代の若手作家が担当しています。伝統技術と新たな感性が光る作品にご期待ください。

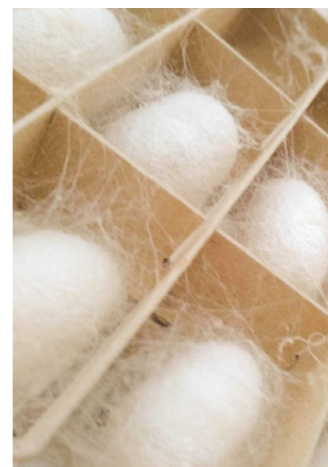
幻の国産蚕 「太平長安」が紡ぐ未来 「Reborn The Silkプロジェクト」拡大中

日本和装ホールディングスが国内の養蚕業を支援する一助になればとの想いから始めた「Reborn The Silkプロジェクト」。生糸の伝統技術や文化継承のために、長らく幻とされてきた国産蚕「太平長安(太平×長安)」を復刻し、蚕の飼育から製糸、製織、染色を経て愛好家へ届けることで、国産シルクの流通を構築してまいります。

3年目の今年は、当初2箱(約4万粒)だった卵も6箱に増加、将来的には年間200箱の蚕の育成を目指すなど順調に拡大が続いています。

昨年には蚕糸に関わる情報サイト「日本シルクワーカーズnet」に登録、新たな繋がりも得ながら養蚕業の維持発展に貢献していきます。

今春、同プロジェクトから生まれた作品が日本工芸国技保存会主催の「第1回 国技展」にて紹介されること決定。ぜひ会場で美しい作品の数々をご覧ください。



生糸作りが始まるのは7月頃。長野県の宮坂製糸所で、日本では稀少な技術となった「手挽き」で行われます。日本の各産地で製織、染色されてつくられた作品は、オリジナルブランド「Arcsilk(アルクシルク)」で発表されています。



よみがえる幻の生糸「太平長安」

富岡製糸場全盛期の名産品種を復刻。幻の蚕が紡ぎ出す生糸には上品な光沢感があり、ハリと軽さを併せ持つ美しい生地になるといわれています。



国技展は
3月高松巡回展を皮切りに
全国14会場を巡回予定

・日本和装の卒業生対象です。・開催日程は日本和装担当局までお問合せください

ニッポンの至宝が集結。 国技展

